

令和3年10月28日

令和3年度 福島市産官学連携プラットフォーム
【2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）】

---プラットフォームで検討すべき課題---

- ・現在の組織体制をどのように連携強化すべきか
- ・今後の展開として現在の課名機関以外をどのようにまきこむべきか
- ・福島市の総合計画に基づき、新たな要望が無いか。ある場合どのように取り入れていくべきか。
- ・産業と行政、大学が連携し、働きながら学ぶ場をどのように提供すればよいか。

① 現在の組織体制をどのように連携強化すべきか

・「地方の時代」と言われつつも、若者の関心は中央に向きがちだが、他県にはない「福島だからこの強み」があると思うので、組織体制をより強化して県民の皆様、市民の皆様に還元できるようにしたい。

委員長 福島の高校生が「福島と言えば？ = 大学での学び」とイメージを作ってくれるように、これからも豊かな教育を育ていけるよう努めます。

② 今後の展開として現在の課名機関以外をどのようにまきこむべきか

・産官学の連携は達成できていると思うが、もう少しプラットフォームでの活動の具体性が欲しい。
福島の若者の県外流出を抑制し、福島の地域に繋ぎとめるような場、シニア層が充実するような場を提供できるような具体的な活動に結び付く必要性があるように感じる。

委員長 福島に残ることを選択してくれた若者が、首都圏に行かなくても楽しく学べる場があると気付いてくれると嬉しく思います。参加している大学の特色ある学びを具体的にお示しできるように努めます。

③ 福島市の総合計画に基づき、新たな要望が無いか。ある場合どのように取り入れていくべきか。

・若者の県外流出を防ぎ、福島未来を担う人材育成を目的とした連携を、プラットフォームを活用して大学、短期大学、行政、企業で進めていきたい。

全国的な問題で、少子高齢化、人口減少があるなかで、福島市の中では特に若い女性の県外流出を抑制したいと考えている。

委員長 総合計画の柱の中に「産官学連携」と刻んでいただいているので、今後とも引き続き、ご支援ご協力を賜ればと思っています。

④ 産業と行政、大学が連携し、働きながら学ぶ場をどのように提供すればよいか。

・福島市内だけではなく、広域連携でプラットフォームの取組みをできるように検討していくといいと思う。

委員長 大学個々では、市を超えた地域との連携もしているが、今後プラットフォームでも広域連携できるようにできたらと希望を持って取り組んでいきます。

・少子高齢化、人口減少を見据えて、生産性の向上が今後ますます重要になっていくと思うので、「DX（デジタルトランスフォーメーション）」などの手段を活用して生産性をあげていき事業の継続を考えるうえで、経済団体としてなにか連携を進められないかと検討している。

委員長 働きながら学び続ける場として福島市内にある大学が地域に貢献できればと願っているが、なかなか手掛かりが掴めていないので、福島商工会議所や福島中小企業家同友会のお力添えをお願いします。